

ニーズに合わせた製品展開で 防草シートの拡販に注力

(株)田中
営業部部長 執行役員
土田 光則氏



(株)田中（住吉 望社長）が防草シートの拡販に乗り出している。河川護岸工事関連の需要が減少するなか、拡大傾向にあるのが防草シート。猛暑のなかで行う草刈り作業は重労働となりコストもかかることから、民間を中心に需要が拡大している。こうした動きを受け、これまで公共工事向けの製品を中心にしていた同社であったが、民間向けのニーズに合わせた製品をラインアップに追加。多様化する顧客のニーズに合わせた提案を行うことで販売を伸ばしている。

同社営業部部長執行役員である土田光則氏のもとを訪ね、防草シートの市場動向と求められるニーズ、そして同社の製品展開などについて話を伺った。

これに対し増えているのが、修繕や補強、老朽化対策工事などのメンテナンス需要である。国や行政も最近はそのらに予算をシフトしているようだ。河川ではないが今年1月埼玉県八潮市で発生した下水管破損による陥没事故も、下水管の老朽化が原因と見られている。これを受けて国土交通省は全国各地の下水管に対する調査を実施したとのことだが、これと同じように河川もこれからは新たな護岸工事ではなく、樋門・樋管等のメンテナンスに関連した需要が増えて行くのではないかと思う。

他方、大型案件では、港湾・空港関連施設の建設需要については引き続き注視している。海岸埋立型の工事が私たちの対象となり、過去には関西国際空港の建設にともなう外周護岸埋め立て工事（1994年）や、羽田空港と那覇空港の拡張工事（2004年、2014年）において、当社が開発した土砂の吸い出しを防ぐ港湾用防砂シート“ニードキーパー NK-500S”（那覇空港では“高伸度ニードキーパー NK-800Z”）が採用されている。ただ、こうした案件は国家プロジェクト的なものであり、毎年コンスタントに出てくるものではない

土木分野、とくに当社が主業としている河川の護岸工事や復旧工事、また、将来を見据えた防災対策工事などで使用される不織布資材に関する景況感から申し上げますと、ここ数年減少傾向にあると感じている。実際、経済産業省の生産動態統計調査によると、2024年の「土木・建築」向け不織布の国内生産が前年比95.2%の1万6,306tとのことなので、やはり想像通りというか、減っているのは確かなようだ。

そもそも、国土交通省や各自治体が発注する河川護岸工事の件数自体がここ数年減少しているうえ、案件1つひとつの規模が小型化している。

国内の一級河川や大型河川など主要河川に対する整備が長年に渡り進められてきた結果、河川の整備率が高まり、新たな護岸工事を必要とするところが減り始めていることが背景にある。調べによると、国内の河川整備率（国管轄河川）は、20年前の2005年に58.0%であったものが、2022年には70.3%となっている。つまり、私たちがターゲットとしている仕事のパイが自然減しているわけである。

確かに、記録的な豪雨や、線状降水帯の発生などで水害に見舞われる地域が増え問題になっているが、その一方で、河川の整備が進み堅牢なつくりになっている。



写真1 シート表面に平滑加工を施している“ニードフル防草シート 表面平滑タイプ”は、シート表面に付着した土埃や飛来種子が風で飛ばされやすくなっているため、雑草の活着を抑えることができる

ので、根気よく営業活動を続けていくことが肝要と言える。

こうしたなか、当社がいまもっとも注目しているのが防草シートである。ここ数年は、とくにこの防草シートの拡販に力を入れており、業績的にも河川資材と反比例するかたちで年々数量を伸ばしている。今期はより一層、その販売に力を入れる方針で取り組んでいる。

民間需要に照準

拡販の鍵となるのは、顧客のニーズに合わせた製品展開である。ひとくちに防草シートと言っても市場には安価なものから高価なものまで、多種多様な製品が出回っている。価格帯が広く、品質面で見ても異なるさまざまな製品が販売されている。

こうしたなか、市場で近年とくに好調なのは、いわゆる安価で手軽に購入できるタイプ。主に民間用といわれる分野である。猛暑のなかで行う雑草の草刈りは重労働となり、コストもかかるので、一般家庭だけでなく民間企業でも防草シートを採用するところが増えてきている。作業する人の高齢化という問題も背景にあるのかもしれない。

従来、当社の防草シートアイテムは、高付加価値型の製品が主体だった。公共工事の場合は通常、耐用年数が最低でも10年以上、つまり暴露使用でも最低10年以上の防草効果を維持する品質が求められるので、公共工事を主体に考えていた当社はそうした製品を中心にラインアップしていた。

ところが、市場でいま伸びているのは、それほど高い機能は必要ないので、限られた予算内で効果的な防草対策ができるような製品を望む声である。家庭用を含め、民間向けであれば5年～8年程度の耐用年数でコストを抑えた製品を求める向きが多い。そこで当社は、そうしたグレードも新たに加えることにした。そして、当社の営業担当が全国各地を回って、顧客のニーズを聞き取りながら、そのニーズにマッチした製品を提案していく。そうした営業活動がいま成果を見せ始めている。

平滑性高めたタイプや施工性を追求した製品も

こうしたこともあり当社では、公共工事向けに加えて民間向けの販売

も多くなってきた。民間向けというのは、例えば大型ショッピングセンターなどの駐車場周りにある緑地帯や、鉄道の線路路面、また、大手の全国チェーン飲食店やドラッグストア、コンビニなど、とくに郊外でチェーン展開している店舗は駐車場が併設されることが多いので、その数だけ需要が生まれることになる。これ以外だと、家庭用が主体となるホームセンター向けというものもある。

当社の場合、防草シートのアイテム数はこの10年で倍増し、現在は14アイテムにまで拡大した。他社製品との差別化を図るため、特徴をもたせた製品も上市している。

例えば、“ニードフル防草シート 表面平滑タイプ（JY-1R / JY-3S / JY-4S）”（写真1）は、シート表面に平滑加工を施しているタイプで、付着した土埃や飛来種子が風で飛ばされやすくなっているため、シートへの雑草の活着を抑えることができる。防草シートを長年使用していると、シートの下からではなく、シート表面に活着した雑草が成長してしまい防草シートとしての効果を阻害することがあるので、こうした製品を開発した。

また、ニーズということでは、安さはもちろん、軽さや強度、施工のし易さといったところがポイントになるので、それらを踏まえた製品の開発にもつねに取り組んでいる。機能が良くても重ければ施工がしにくくなるので、良い製品とは言えない。土木用不織布資材のすべてに言えることだが、防草シートも軽く、かつ従来の機能を備えた製品であることが重要なポイントとなる。

さらにつけ加えると、安かろう悪かろうでもいけない。いくら安くても、1年程度でぼろぼろになってし



写真2 太陽光発電所での使用例。表と裏の両面で採光して発電できるタイプの発電パネルが主流となっている今日では、地面方向からの採光も重要となっている（写真は“ニードフル防草シート JY-3S”）

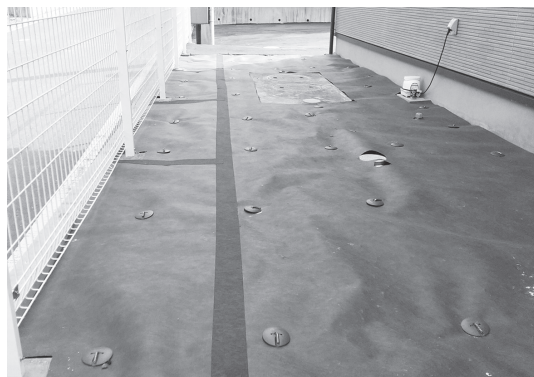


写真3 新製品“ドゥーン（DUNN）”

まうようでは、張り替え作業の手間が増えるうえ、古くなった防草シートは回収して処理しなければならないのでコストがかかる。購入者側もそうしたことがわかり始めてきたので、それならば初期費用は多少高くても長持ちするものを購入しようというニーズも年々増えてきている。

一方、色も1つのポイントで、防草シートという緑のイメージが強いと思うが、ひとくちに緑と言っても、さまざまなバリエーション（色合い）がある。顧客や、施設現場の周辺環境によっては好みが分かれるので、同じ緑でも当社では明るい緑から暗い緑まで幅広く取り揃えている。

発電効率向上に寄与する 白色シートを開発

変わったところでは、太陽光発電所向けに開発した白色タイプもある。太陽光発電所では通常、雑草などが伸びて太陽光を遮ってしまわないように雑草対策のひとつとして、発電パネルの下に防草シートを敷くが、今後の発電パネルは表と裏の両面で採光して発電できるタイプが主流になると見られている。つまり、地面方

向からの採光も重要となる。そこで、防草シートを白色にすることで太陽光の反射率を高めて、発電効率の向上に寄与しようという製品である。

ただ、ここで問題となるのが白色にした場合の耐候性であり、そもそも白色というのは劣化しやすい。ところが、太陽光発電所の場合は10年から20年は稼働しないと収益が出ないと言われるほどなので、そこで使う防草シートも長期間の耐用年数が求められることになる。したがって、高い白色度を維持したうえで、その耐用年数をクリアするため当社では、耐候性に優れた素材や耐候剤を探し求め、それらを使用することで開発に成功した。この分野はまさにこれからの分野なので、引き続き実証と開発を進めて行き、更なる品質向上に努めて行きたいと考えている。

また、昨年上市した“ドゥーン（DUNN）”（写真3）という製品においては、早期に100万m²の販売を目標にしている。ドゥーンは、高密度長繊維不織布を使用した防草シートで、チガヤ（イネ科）など貫通力が高い強雑草の突き抜けを抑えることのできる、貫入抵抗の強い

シートとなっている。シート表面は先ほど申し上げた製品と同様、平滑で土埃や飛来種が風で飛ばされやすく、とくに平坦部でのシート表面の雑草活着を抑制することができる特徴を備えており、また、軽量（約8kg/巻、FT-260G 幅1.0m）のため施工性が高く、ハサミやカッターでも簡単に切断することができる。厚さは0.5mm/0.65mmなので折り曲げも容易なので、構造物との取り合い部における接着処理などの施工性にも優れている。材質はポリエステル100%で耐熱温度が高く、アスファルト舗装工事との併用も可能だ。また、難燃性なのでタバコなどのポイ捨てで燃えることもない。こうした特徴をアピールしていくつもりだ。

そもそも、防草シートはまだ一般的に対する認知度が低いようで、こちらから提案してみても初めて、こういう良い資材があるのを知ったという方も少なくない。実際に使用してみて、これは使えるねと、だんだんと認知度が上がってきている。つまり、開拓の余地はまだあるので、引き続き顧客のニーズをきめ細かく探りながら、事業を進めていきたい。